

聖陵 Sei-Ryou

2019.3 Vol.22
盛岡大学聖陵同窓会報



発行者／盛岡大学聖陵同窓会
事務局／〒020-0694
岩手県滝沢市砂込 808 盛岡大学内
電話 .019-688-5555
ホームページアドレス
<http://www.morioka-u.ac.jp/seiryou/>

東日本大震災により被害を受けられた皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

CONTENTS

■ 同窓会長あいさつ	1	■ 恩師からのメッセージ	3
■ 学長退任のご挨拶	2	■ 卒業生は今	3
■ ホームカミングデーが開催されました	2	■ 職員からのメッセージ	4
■ 活躍する在学生	2～3	■ 事務局だより／編集後記	4



①②③盛大学生さんさ ④盛大ドリーム33

そして、私共同窓会主体の盛大ドリーム33が、8月4日開催の

平成最後のホームカミングデーが10月7日に行われ、兄教人鳳明学園 社会福祉法人みつは会理事長）に「出会いが人と人をつなぐ」と題して楽しい講演をして頂きました。田頭さんの学生時代の若き日のスライドでは多くの喜びと笑いを誘い、更には桜田マコトさんとのステージ演奏と手話によるスタッフの笑顔に心から感動し、私自身涙腺が緩みました。本当に良い思い出になりました。更には田頭さんにおかれては18年度から盛岡大学の評議員に選任されております。19年度から附属厨川幼稚園、附属松園幼稚園がこれまでの幼稚園から子ども・子育て支援新制度（施設型給付）幼稚園へ移行致しますが、ここでも経験豊富な田頭さんに親身になってアドバイス頂けると思っています。よろしくお願い致します。

さて、私共同窓会主体の盛大ドリーム33が、8月4日開催の

砂込キャンパス
平成元年移転から30年



同窓会長 あいさつ

盛岡大学聖陵同窓会
会長 菅原 元

さんさ踊りに118名で参加、見事最優秀賞を受賞、前日の現役生も最優秀賞を受賞しており、アベック受賞となりました。これは平成20年以来10年ぶりになります。参加した方も、ご覧の頂いた方も大きな感動を頂きました。事務局としてメンバーを一つにまとめた亀澤美沙緒さん（英文二十二期生、現盛岡大学教員養成サポートセンター）や、田上智也さん（兄教二十四期生、現盛岡大学・就職センター）の貢献に感謝致します。訃報ですが、教員養成サポートセンター所長の深田好昭先生が8月に逝去されました。ご冥福をお祈りします。また、3月をもって徳田元学長が退任され、高橋俊和先生が新学長となります。徳田学長はホームカミングデーの実施を含め強いリーダーシップの基、学生目線と複眼で貢献を頂き感謝申し上げます。最後になりますが、同窓会事業に皆様からの御指導、御鞭撻の程重ねてお願い申し上げます。

学長退任のご挨拶

盛岡大学学長 徳田 元



2013年（平成25年）2月に学長に就任し、2019年（平成31年）3月末日をもって学長を退任いたしました。6年2ヶ月の長きにわたり、同窓会の皆様にはご支援頂き誠にありがとうございました。

地方の小規模大学である盛岡大学は、少子化社会を生き残るために大学の改革が必要であるという強い思いに後押しされての学長選挙への立候補でした。就任後まもなく、学長名による中期目標を作成しました。大学が生き残るためには教職員の一致団結が必要であり、そのためには行動の指標となる中期目標の設定が必要と思つたためです。その他に、矢継ぎ早に多くの改革を提案したため、当初は反発もありましたが、いずれ理解してもらえるという確信がありました。改革の中には、新棟スチューデントホール」の建設がありました。また、外部資金を獲得することが大切であることを訴えました。その他、振り返ると随分多くのことを新たに始めました。これにより、教職員の仕事が増えましたが、大学を生活の基盤としている教職員は、自らの生活の安定には大学の安定が必要であり、そのために仕事が増えるのは仕方がないと思ひ改革を進めました。「大学は高等教育を商品として売るサービス企業であり、顧客となるのは、学生とその保護者である。良い商品を作りそれを宣伝して買ってもらうことが大切である。」という意味のことをどこかで述べました。この思いは今も変わりません。

盛岡大学は北東北の地で一定の評価があり、認められた存在であることは、学長就任後いろいろの場面で遭遇し、強く認識しました。各地で活躍する盛岡大学卒業生の良い評価を聞くたびとても嬉しく思ひ、盛岡大学の発展のために尽くしたいという思いが益々強くなりました。一方、学長就任時に比べ、大学を取り巻く状況は一層厳しくなりました。18歳人口が減少の一途をたどる「2018年問題」には、昨年突入しました。緊迫した情勢の中を生き抜くには、これまで以上の教職員の一致団結と効率の良い大学改革が必須であると考えます。

本学は教職員と学生の距離が近いことを誇りにしています。さらに保護者と教職員の距離も、大規模校では考えられないような近さです。小規模校のメリットを生かし、社会で活躍する卒業生を送り出し続けることを願っています。

同窓会の会員の皆さんは、盛岡大学卒業生であることを誇りにし、一層活躍して頂きたいと思ひます。

ホームカミングイベントが

開催されました



主催・聖陵同窓会
共催・盛岡大学・盛岡大学短期大学部
盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会

平成30年10月7日（日）盛岡大学聖陵同窓会主催、盛岡大学・盛岡大学短期大学部、盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会共催による、第6回ホームカミングデー2018を開催。当日は、台風の接近による悪天候にも関わらず、全体で200名近い参加となり盛会となりました。歓迎レセプションでは盛岡さんさ踊り3連覇を達成した盛岡大学・盛岡大学短期大学部さんさ踊り実行委員会の演舞を披露。悪天候のため屋内での披露となりましたが、台風を吹き飛ばすような庄巻の演舞でした。

その後、同窓生の田頭初美さん（学校法人鳳鳴学園理事長・社会福祉法人みつは会理事長）から講話「出会いが人と人をつなぐ」をいただきました。その中で、田頭さん作詞、同窓生の桜田マコトさん（シンガーソングライター）作曲の歌を桔梗野幼稚園の先生方による手話とコラボし披露。児童教育や同窓生同士の繋がりを感ずることができました。

また、昨年度から実施している、同窓生と在学生の交流を目的とした「同窓生在籍企業・団体出展企画」には、23の企業・団体に参加。各ブースでは、企業の特徴を生かした紹介や体験型のイベント企画等を実施しており、来場者で大いに賑わいました。

岩姫ラウンジでは、スタンブラーの景品である美味しいケーキを堪能しながら、桜田マコトさんによる生演奏というBGMもあり、耳でも口でも楽しめる時間を過ごしました。

このように同窓生と在学生が関わることでできる機会があまりないので、次年度開催する場合は、より多くの同窓生に参加して頂き多くの同窓生・在学生をつなぐ場にしていきたいと考えております。

今回ご協力いただいた企業・団体の皆様はじめ、ご参加いただいた皆様には改めて感謝申し上げますとともに、次回ますますのご参加を心よりお待ちしております。

活躍する在学生

全国大学ビブリオバトル2018～大阪決戦～出場

文学部児童教育学科4年

石母田 歩さん



私は、昨年末に「第9回全国大学ビブリオバトル」に予選会、そして地区決戦を経て本選に出場してきました。本大会は、出場者が「面白い!」と感じ、誰かに読んでもらいたいと思う本を持ち寄り、投票によって大学生の進める本の日本一を決める書評合戦です。人が言葉を通じて、「面白い」「怖い」「驚いた」「悲しい」という感情を聴衆に届ける、とてもシンプルな大会でありながら、聞き終えた後に大きな満足感を得ることができます。その満足感、聞き手一人ひとりの中で形を変え、新たな興味や世界観を与えてくれます。私は、本大会を通して、同世代の方々から新しい世界観を沢山教えて貰い、改めて本を読むことの魅力に気づくことができました。春からは教師の仕事を通して、子どもたちに本との出会いを楽しんでもらいたいと考えています。

文学部社会文化学科3年

佐々木美波さん



盛岡大学・盛岡大学短期大学部学生広報スタッフ・サポーターのリーダーとして、主にオープンキャンパス(OC)の運営や聖陵祭でのミニオープンキャンパス開催、SNSでの広報やプレゼン大会の実施などの活動を行いました。OCでは、学友会や学生生協の皆さんと協力して運営しました。

今年度は自分たちの学生生活について話すモリトークを7月のOCで開催し、来場者の皆さんに盛岡大学の魅力をより身近に伝えることが出来ました。また、第2回目となる学生広報スタッフのみで行われたプレゼン大会では、発表者のプレゼンの様子を審査し、発表者、審査側双方のプレゼンする力の向上を図りました。

リーダーを務めて、組織をまとめる力や判断力、相手に自分の考えを伝える力が養われたと思います。これからは、後輩達の活動がさらにより良いものになるようにサポートしていきたいです。

恩師からのメッセージ



文学部 日本文学科
教授 大石 泰夫

早いもので、私が盛岡大学文学部日本文学科に着任して28年が過ぎようとしています。その時の4年生の何人かとは、いまだに年賀状のやり取りがありますが、考えて見ると彼らも50歳になろうとし、私も2月の誕生日に還暦を迎えました。

毎年同じように教壇に立っていると、何も変わらないように感じます。なぜなら、学生の年齢は28年経っても同じだからです。しかし、32歳だった私は60歳になってしまったわけで、学生たちにとって「ちょっと年上のお兄さん」ぐらいだったのが、お父さんの年齢を超え、まだお爺さんには早いと思いますが、自ずと距離が違ってきていることは確かでしょう。

そんな私も2019年3月31日で盛岡大学を「卒業」します。何と素晴らしい教え子に恵まれた28年だったことか。絶対誰にも負けない私の財産です。卒業生の皆さん、本当にありがとうございました。またどこかでお目にかかりましょう。



文学部 社会文化学科
教授 柳沢 文昭

卒業して何年も経っているのに突然、あの時代のなんでもない風景の記憶が、抑えがたく心の内に立ち上がって来ることはありませんか。それは眠りから覚めたばかりとか、乗り継ぎの列車を待つあいだとか、

家族が皆、出払ってたまたま自分だけ一人になったときとか、要するに心がしばし武装を解いたとき、あるいはまだ鎧を着けていないときなどです。そこで、そんな記憶に我を忘れることがあるのは自分だけではないと思って下さい。すると、そのとき皆さんは、かつて盛岡大学に集ったすべての人たちと一緒に一つの精神的共同体を構成することになります。ぼくは、同窓会とはそのようなものだと考えています。私事で恐縮ですが、ぼくはこの3月で盛岡大学退職の運びになります。同窓会の一員として、あらためて皆さんから受け入れてもらえたら幸いです。

卒業生は今



文学部児童教育学科 平成11年度卒業
社会福祉法人育木会 秋山・学びの保育園園長
日本ラグビーフットボール協会リソースコーチ

向井 陽さん

5歳から始めたラグビーを在学中も全力でプレー、また幼児教育の勉強を中心に楽しい学生生活を過ごしました。

卒業後は幼稚園教諭と釜石シーウェイブスR.F.C.でのラグビープレーヤーを両立。その間、ラグビー日本選手権出場という貴重な経験をすることもできました。

引退後は、新たな目標を持ちチャレンジする為に日本ラグビーフットボール協会のコーチとして全国で子ども達にタグラグビーの指導を行っています。また、千葉県で保育園園長の職に就き日々職員の育成、子ども達の成長を見守り続けています。

今までラグビー、子ども達に関わる仕事を中心に過ごしてきたのは、自分が好きなことを見つけ、目標を持って頑張る楽しさ、素晴らしさを知り、そこに関わる仲間の良さ、感謝の気持ちの大事さを伝えたかったからです。

やればできた、できそうな気がする、このような気持ちを経験しながら頑張る子、また自分の良さ、仲間の良さを知り、仲間を大事にすることができる、感謝の気持ちを素直に伝えられる子が増えることを願い、自分らしく子ども達と関わり続けていきたいと思っています。子どもの心が豊かになる為には先ずは大人から、自分磨きを続け何歳になっても成長を止めないことが大事ですね。

恩師からのメッセージ

縁があれば？…旧友とのつながり

文学部 児童教育学科 教授 梅本 信章



大学を卒業すると親しかった友人達とも会う機会が減り、年賀状の交換程度で細々と音信を交わしていた。

60歳を過ぎた頃、少しの偶然が重なり、その中の一人、Aからの音信が途切れた。少々の寂しさを憶えたが、私の方から特に復旧に努める

わけでもなく、「縁があれば、いつか繋がるだろう」とのんびり構えていた。

数年後、突然、別な友人から「お前からの連絡が途絶えた」とAが言っているが、どうなっているんだ？との問い合わせが来た。繋がったと思った。これをきっかけに、今一人にも声を掛け、何十年振りかで4人が顔を合わせた。皆、歳を重ねてはいたが、同じ声、同じ口調、同じ態度だった。今年も、古希を口実に集まろうという連絡がきた。縁があったのだ。回線は太く丈夫になって復旧したのである。

活躍する在学生



「第5回チャレンジ!糖尿病いきいきレシピコンテスト」優秀賞 受賞

栄養科学部栄養科学科4年
菅原 朱里さん

私たちは木村京子先生のゼミの活動の一環として、糖尿病レシピコンテストに臨みました。血糖値の急激な上昇を抑える食材や県産食材を用いて、季節感が味わえ、食べて満足感のあるレシピを考案しました。その結果、優秀賞を獲得することができました。

制限される、量が少ないと思われがちな糖尿病の食事のイメージを払拭するために、試行錯誤を重ね、視覚でも楽しめるよう彩りや盛り付けにもこだわりました。コンテスト当日は、審査員の方々や他大学の学生との交流の中で自分たちには無い視点やアプローチの仕方についても理解を深めることができました。

大学での学びを発揮し、優秀賞という形で評価して頂けたことは私たちの自信と学び続けることへの意欲の向上に繋がりました。この経験をこれからの人生に活かしていきたいです。



第53回全日本大学ソフトボール選手権大会 出場

栄養科学部栄養科学科3年
男子ソフトボール部 投手

澤屋 敷 海さん

私たち男子ソフトボール部は部員18名、マネージャー3名の計21名で活動しています。高校時代野球をやっていた人がほとんどですが、初心者の方も所属しています。

私たちの部活にはモットーがあり、それは「全員で勝つ」です。スタメンの人だけが活躍するのではなく、スタメンの人は控えの選手も試合に出られるように点差を広げる、控えの選手も試合に出たら全力で練習の成果を発揮するということを念頭に置いています。今回私たちは数年全国大会から遠ざかっていた状況でしたが、平成30年5月に山形県南陽市で開催された第53回インカレ予選で優勝し、全日本インカレに出場することができました。これは全員で掴んだ勝利だと考えています。チームスポーツの醍醐味を味わえた瞬間でした。このモットーは絶やさず後輩にしっかりと受け継いでいきたいと思いました。

今年はインカレ予選突破はもちろん、全日本インカレでの1勝を目標に努力していきたいと思っています。今後とも応援の程よろしくをお願いします。

職員からのメッセージ



盛岡大学 元事務職員 渡辺 嘉明

卒業生みなさんお元気ですか。皆さんのおかげで、盛岡大学に38年と9ヵ月勤務し、平成30年12月末日をもって、盛岡大学を退職（卒業）いたしました。

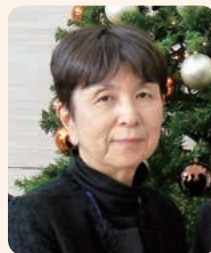
皆さんから多くの元気をもらい、たくさんの思い出と多くの出会いがありました。特に東日本大震災のとき、学生部にいて、春休み中、大学としてはまず学生の安否確認を優先にし、ひとり一人に電話かけをしました。

沿岸出身者の所在不明があり、本当に心配したことを思い出します。そんな中、所在のわからない学生の安否確認のため、岩手県庁の安否確認名簿を探してくれた学生もいました。〇〇ちゃんは元気ですと大学に電話くれた学生もいました。全員の無事が確認できて、ほっとしたことを昨日のことのように思い出します。

就職センターの勤務では、多くの学生といろんなお話しすることができました。就職の事だけでなく、世間話をしながら、学生が気軽に入れる環境をいかにつくるかを考えていたような気がします。

若者の離職率が高かった時代です。「勤めたら3年はがんばれよ」が私の合い言葉でした。今でもあの卒業生はどうしているかなと考えることがあります。ぜひ大学を訪問し、恩師の先生でも、話しやすかった事務職員でもかまいません。近況報告をお願いいたします。あったかいのが盛岡大学です。

最後になりますが、皆さんのご健康とご多幸をお祈りし、盛岡大学並びに盛岡大学同窓会のますますのご活躍とご発展を祈念申し上げます。



養護教諭 渡辺 淳子

これまで幼稚園、小、中学校で養護教諭として勤務し、今は大学の保健室で学生の心身のサポートをする仕事をしています。就学前から大学まで（高校生の時期を除きますが）成長発達していく姿を間近で見ることができています。多くの学生は大学生活を謳歌し、卒業を意識する学年になると社会人として生きていく術を身に着けるために奮闘しています。しかし、中には修学や人間関係等に迷いや苛立ち、不安を抱え、苦しんだり自信を失ったりしてその場に立ち止まってしまう学生もいます。そのような学生が心身の不調を訴えて保健室を訪ねてくれ、そこから長い付き合いが始まることもあります。特効薬はありませんが話を傾け、休養させ、その学生の思いを受け止めることでゆっくりゆっくり進むことができることもあります。間もなく新しい年度を迎えます。保健室がこれからも学生の次のステップに移るまでの居場所のひとつと認知してもらいたいと願っています。

平成29年度 聖陵同窓会決算報告

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

収入の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額
入会金	1,750,000	1,840,000
終身会費	3,500,000	3,680,000
雑収入	20,000	3,958
特定預金取崩収入	0	0
計	5,270,000	5,523,958
繰越金	861,576	861,576
合計	6,131,576	6,385,534

支出の部

(単位：円)

項目	予算額	決算額
事業費	3,770,000	3,382,830
事務費	10,000	2,700
通信費	50,000	0
会議費	200,000	140,637
慶弔費	100,000	33,000
旅費交通費	100,000	35,000
財政基金繰入支出	500,000	500,000
計	4,730,000	4,094,167
繰越金	1,401,576	2,291,367
合計	6,131,576	6,385,534

事務局だより

今年の冬は寒さこそ厳しかったものの、この事務局だよりを執筆している2月末は既に雪もなく、砂シキヤンパスは穏やかに卒業生を送り出す季節を迎えています。同窓会にとっては新しい仲間を迎える季節です。

さて、盛岡大学は2018年度に行った入試から特待生制度を新設しました。詳しくはホームページや入学願書等で確認して貰えればと思いますが、高校在学中に学業で頑張った生徒や、経済的な支援が必要とされる生徒に支援を行う内容となっています。盛岡大学短期大学部にも新設されていますので、お子さんが大受験を迎える同窓生の方、参考にしてください。

聖陵同窓会の会員は2019年3月の卒業生をもって12,500名を越えます。しかし、転居等により会報をお届けできていない会員も少なくありません。同窓生同士でお話

しする機会などありましたら同窓会報のことを話の端にのせていただき、「届いていない」という方がいらっしやいましたら、住所変更登録を勧めて頂けると幸いです。

盛岡大学ホームページ等で既報ですが、文学部児童教育学科教授の深田好昭先生が2018年8月24日に亡くなりました。63歳でした。花巻市立石鳥谷小学校、盛岡市立緑が丘小学校、盛岡市立桜城小学校で校長を歴任され、盛岡大学には2016年4月から勤務。2017年からは教員養成サポートセンター所長として教職を目指す学生たちの指導にもあたられました。心からご冥福をお祈りいたしますとともに皆様にお知らせいたします。

編集後記

編集委員

佐藤克俊(平成24年度卒)/畑村とも子(昭和60年度卒)/佐藤大裕(平成12年度卒)/上條尚樹(平成15年度卒)/吉田智子(平成15年度卒)/長谷川健之(平成18年度卒)/川田彩乃(平成20年度卒)/佐々木啓(平成23年度卒)/小田野愛子(平成24年度卒)/西館智美(平成24年度卒)/平佳那(平成24年度卒)/英土貴(平成26年度卒)/杉澤佑(平成26年度卒)/田澤駿乃(平成27年度卒)/今野結(平成28年度卒)

同窓会報の掲載テーマを検討する際、在学生の輝かしい話題が多いのが喜ばしい限りです。聖陵同窓会では、現在HP上で盛岡大学・盛岡大学短期大学部イメージ調査を実施しております。「盛大の強みや弱み」、「卒業後から見る盛大のイメージ」など、ぜひ皆さまのご忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。



イメージ調査 QR コード